

宝小学校だより

ななさと

宝小学校学校だより
NO19

平成29年2月28日(火)
文責 小俣 一夫

来年度の入学生は23名です。

平成29年度入学児童保護者説明会を1月30日(月)に行いました。来年度は、男子9名、女子14名の合計23名の新一年生が入学してくる予定です。保護者への説明会の中では、こんな話をしました。

お父さん、お母さん方は、子育ての最終目標をどんな所に置いているのでしょうか。どこまで到達したら、子育ては完了なのでしょう・・・と問いかけてみました。私は、子育ての究極目標は、つぎのような所にあると考えます。

- ①自分の力で生きていけるような自立した生き方の基礎を身につけさせること。
将来的にはそのことが、自己のキャリアや職業選択に繋がっていくのだと思います。
- ②世の中の多くの人たちと共に生きていくための必要なルールを身につけさせること。人は、間違いなく一人では生きていけません。多くの人と関わりながら生活しているのが人間です。

こんな力を付けさせることは先に生まれた者の責任であり、使命でもあると思います。こんなふうに我が子が育ったなら、親は安心してその後の自分の人生を過ごしていくことができる最高の「子育て」なのかもしれません。親の人生もまた、親だけのものですから・・・

また、6年生の子どもたちに「将来、社会に出るときに、欠かせない力、今の自分に足りない力にはどんなものがあると思いますか?」という質問をしたところ、

- ①コミュニケーション能力
- ②同じ目的を持った人々と協力や連携して物事をやり遂げる力
- ③自分に対しての自信
- ④笑顔・礼儀や挨拶
- ⑤語学力→英語力

6年生はこんな素晴らしい意見を出してくれました。同時に、たかが12歳ですが、されど12歳です。今の社会をたくましく生き抜いていくためには何が必要で、今何をやらなければいけないのかを的確に理解しています。改めて、しっかりとした考えを持って中学校進学に向けて日々、取り組んでいるんだなあ・・・と感じました。

親として、わが子が数十年後、社会に出るときに、一人の社会人としてどんな力を持っていないといけないのか。どんな力を付けておくことが必要なのか。そんな見通しを持って、子どもの成長に関わっていくことがとても大切な時代になっているのではないのでしょうか。

子どもたちが今後、職業について、社会の一員として一人前に自立するために必要なことは、生活の中の様々なことに対して、自ら課題を見つけ、その解決方法を考え、協力者を探し、自分の力で解決したり、決定したりする力を身に付けることだと思います。そして、これこそが今後、変化の激しい社会でたくましく生きていくために必要とされる「生きる力」であるのです。そのためには、基礎的・基本的な学力(国語力・計算力・様々な知識)が必要です。これからの時代は、基礎・基本を覚えるだけでは役に立ちません。学んだ基礎・基本をどんな場所で、どんな形で役立てていくのが重要になります。もちろん健康な体も必要です。さらに、人間関係を円滑に構築し、友だちを思いやる優しい心も欠かせません。こんな「心」「体」「学力」のバランスの良い成長こそが、人間としての成長には欠かせないものであると考え、本校においても、子どもたちがそんな力をつけることができるよう日々、取り組んでいます。



「起震と煙」の体験を取り入れて防災訓練を行いました!

本校では、年間3回の計画で、地震や火災を想定した「避難訓練」を実施しています。今回は県防災センターと都留市消防署に依頼して、「起震と煙の体験」を行いました。

起震車は震度7が体験できる車です。また、ビニールハウスは中に煙が充満して、火事等が起こったときに家の中はどのような状況になるかという煙体験も行い、震度7がどんなにすごい揺れなのか、火事で煙が家の中に充満すると先が見えなくなるということを実際に体験しました。

平成23年3月11日あの忌まわしい大津波の東北大地震から早6年、その間には、熊本地震もありました。さかのぼると平成7年1月17日の阪神淡路大震災もありました。その後、避難や被害の教訓を生かし日本各地で防災に対する様々な取り組みが進められてきています。反面、「喉元過ぎれば熱さ忘れる」というのが、日本人の特徴の一つでもあるかも知れませんが、災害に対する意識が、あの3.11から時間とともに風化してしまうことは、決してあってはならないことです。そして、今後、家庭や地域防災にも関わらなければならない小学生です。学校においても「小学生も助けられる人ではなく、自分の命は自分で守り、誰かを助ける人。」という自覚の下に、児童一人一人の防災に対する意識や知識の向上と非常時における実行力の習得に努めなければならないと考えています。

できることなら、使うことがないに越したことはありませんが、現在、学校には非常災害時のために、家庭に引き渡しができない時を想定して、1食分のアルファ米と水一人1リットルが保存してあります。なお、防災倉庫には、児童が使える100枚の毛布も確保できています。

※アルファ米(炊飯したご飯を急速乾燥し、熱湯や冷水でご飯に戻せるもの)

子どもたちにとって最も有効な学習は、様々な体験を通じて学んだ経験です。繰り返しの訓練で、様々な状況に遭遇しても対応できる知恵と勇気を身につけさせたいと思います。

是非、各ご家庭でも非常災害時の家族の行動や集合場所等、想定できることについて話し合っ、確認をしておいてほしいと思います。また、非常持出品や備蓄品の準備・確認もお願いします。水、食料、乾電池、携帯電話用の簡易充電器・・・等々、消費、使用期限等の定期的な確認も必要であると思います。

また、実際に通学路と一緒に歩いていただき、塀や家屋の倒壊の危険な箇所はないか、このあたりで地震が起こったなら、家に帰る、学校まで行く、この広い場所で待機・・・など、状況に応じた判断に対する指導も併せてお願いしたいと思います。就寝前には、枕元に着替えを置いておく。最低でも靴下をすぐはける状況にしておく等の日常の備えも欠かせません。

今年度、世界文化遺産に登録された「富士山」ではありますが、300年間溜まったマグマが、いつ噴出してもおかしくないと警告している科学者もいます。また、気象庁の発表する情報で東海地震や南海トラフ地震など、私たちが住んでいる地域も巨大地震被害の想定範囲に入っています。

子どもたちの暮らすこの宝地域は、前は川、後ろは山という地形で、土砂災害特別警戒地域にも指定されていますが、子どもたちは、幼い頃からこの地域の山や川で遊び、美しい自然の中で暮らしてきました。想定されている大地震が起こったら、非常に危険で大惨事になるかもしれません。しかし、恐ろしい思いながらこの地域に住まうのは不健全であり、地域に対する愛着も生まれません。この山間地に暮らすことは、自然の恵みに近づくことであると同時に、時には災いに近づくことであり、災いをやり過ごす知恵を持って暮らすことこそが、この地に住まう優しさではないのでしょうか。

日々、日常の中で地震を恐れる必要はありません。美しい自然に感謝し、それを楽しむ日々であり、地震発生の兆候を感じ取ったその時は、「しっかりと自分の命を自分で守る」そんな対応のできる自分を堅持することができればいいのだと思います。そうすれば、地震発生が想定される地域であっても、子どもたちはこの地を愛し続けられると思います。また、そんな子どもたちを育てていきたいと思っています。



↑しっかりつかまって!
←煙で前が見えないよ!

震度7はすごいね